

[タイム] 砂防ダム(8:15)→カノ沢出合(8:20)→沢終了(8:35)

鬼ヶ煩沢源流

1989年5月27日

L

郎

天気晴。砂防ダム上部の二俣を左に入って、鬼ヶ煩沢源流をめざす。さして変化もないまま、遡行を始めて10分程で水は濁れてしまう。カレ沢を遡んでゆくと、やがて二俣に分かれるので、左に入り、ヤブをこいで稜線に出る。稜線には踏跡があった。出合から稜線の標高約760mのピークまで約40分である。

(記・)

[タイム] 出合(8:55)→源頭部二俣(9:10)→稜線(9:25)→760mピーク(9:35)

檜沢とその支流イの沢、口の沢、ハノ沢

1989年5月27日

L

檜沢橋そばの広場に車をデポ。7:55遡行開始。5分程で最初の支流(イの沢)にであう。まずはここから偵察にかかる。小滝の続く沢である。黒い岩肩がつまったなかに、1~3mの滝がいくつもかかっている。別に難しい滝はない。15分程遡ると二俣。右俣は4mの滝がかかる。本流は左俣である。こちらは小滝が階段状となっている。スタンス豊富で、楽に越して行く。このあとも小滝が続くが、次第にまばらとなり、水も少なくなる。出合から50分遡った所で源頭となり、遡行終了。樹林帯の中を登って尾根に出る。

尾根上で小休止したのち、口の沢(仮称)の下降に移る。沢までは急な斜面の下りであった。遡ってきた沢とは尾根1本隔てただけだが、この沢は平凡である。小滝も少ない。檜沢本流間近でちょっとしたゴルジュが出現したが、ただそれだけであった。

再び檜沢本流の遡行を続ける。明るい河原が続く。水流も多い。「八溝山域の沢の本流筋に滝はないよ」などと話していたら、突然沢筋が暗くなり、ゴルジュ状となって滝が出てきた。4mの滝。ホールド豊富で、楽に直登。今までの明るい沢筋からはとても想像できない、突然の変化であった。しかし、これはと思っ

鬼ヶ煩沢支流ルの沢

1989年5月27日

L 郎

天気晴。11時50分下降開始。5分程で沢に水が出てくる。この沢の両岸にはだ
いぶ前にスギやヒノキが植林されていて、うっそうとしており、沢にはヤブがか
ぶさっている。

5分程下った所で昼食をとり、下降を再開すると2m程の小滝が出てくる。こ
の後左岸には比較的幅の広い造林のための作業路が出てくる。至る所寸断されて

